茨城県教育目標
取手市教育目標

取手市学校教育
３つの取組
取手市
学びのコンパス

戸頭中学校校訓
自　主
勤　労
協　力

令和８年度　取手市立戸頭小学校　グランドデザイン

令和８年度　戸頭地区学校教育目標
夢を語り合い　心をひとつに　成し遂げよう

取手市立戸頭小学校　学校教育目標
「自ら学び、心豊かな、たくましい児童の育成」

戸頭中学校　学校教育目標
夢をもち　語り　動き出そう

戸頭小スローガン　**「心を一つに成し遂げる」**
～子供の笑顔があふれ、地域とともにある学校を目指して～

令和８年度　学校組織目標
- **「分かる、できる、楽しい」を実感できる学習指導の工夫**
- **自分の成長と互いのよさが実感できる特別活動の実践**
- **学校や地域を活性化する「あいさつ」の励行**

令和８年度　教育活動の重点

【かしこい子ども】
確かな学力の育成

①　チーム指導の充実
- 授業交換や合同授業により児童に複数の教職員で関わる指導体制の構築
- 多面的な児童理解と支援の実施

②　楽しい授業づくり
- 課題設定の工夫改善
- 考えを交流し，学び合う授業づくり
- 実生活との関連や振り返り活動
- 個に応じた指導の充実
- 各教科での言語活動の充実

③　家庭学習の充実
- 量より質を重視した課題
- 実態に即した学習方法の選択
- 家庭学習の在り方や対応方法の確立

○令和８年度茨城県学力診断のためのテスト
・各学年各教科　県平均以上
○学校評価アンケート
・「授業が楽しい」（児童）肯定的回答80%以上
・「家庭学習に取り組む」（児童、保護者）肯定的回答70%以上

【心豊かな子ども】
豊かな心の育成

①　特別支援教育の視点を生かした指導体制の充実
- ユニバーサルデザインの視点を生かした学級経営、教室環境づくり
- 配慮を要する児童の共通理解と組織的支援
- 関係機関と連携した教育相談部会の充実
- 定期的なアンケート調査と面談による積極的な生徒指導の推進

②　認め合う活動の充実
- 互いに認め合える学年学級づくり
- いじめ撲滅に向けた取組の推進

③　よさを発揮できる活動の充実
- 児童が企画した集会等活動の実施
- 学校学年行事と学級活動、道徳科の連携
- 活動ごとの自分の成長が実感できる振り返り活動の実施と蓄積

○新規児童集会の実施
○学校評価アンケート（児童･保護者）
・「学校が楽しい」　肯定的回答80%以上
・「学校に居場所がある」肯定的回答80%以上

【たくましい子ども】
健やかな体の育成

①　体力の向上
- 体育授業時における運動量の確保
- 体力向上を目指した集会活動の実施
- 外遊びの奨励（ｸﾗｽ遊びの計画的な実施）

②　自己管理能力の育成
- 基本的生活習慣の確立
- マナーアップと規範意識の向上
（あいさつ運動の活発な推進）
- 健康教育の推進
（飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育や命の安全教育、がん教育における専門家等の活用等）
- 安全教育，防災教育の充実
（計画的な避難訓練・防災教室の実施）
- 情報活用能力の育成
（全学年での情報モラル、ネットリテラシーに関する学習の実施）

○体力テスト
・Ａ＋Ｂ：Ｒ７年度以上
○学校評価アンケート（児童）
・「進んで挨拶ができる」肯定的回答80%以上
・「進んで運動をする」肯定的回答80%以上

【地域とともにある学校教育・信頼される学校の推進】　**「戸頭地区の一員としての自覚の醸成」**
○児童の力を伸ばす地域防災　○人的・物的資源の活用　○学校評価による教育活動の改善　○戸頭大好きを実感
○戸頭地区学校運営協議会の推進（小中９年間で育てる戸頭地区の児童生徒に関する熟議）

【学校経営理念】
「自分の成長が実感できる学校」の創造

【学校経営方針】
(1) 児童に「分かる・できる」を実感させられる「楽しい」学習活動を展開し，学力の向上を図る。
(2) 児童一人一人が「自分のよさ」を実感し，「他人のよさ」に気付き認めることのできる教育活動を推進する。
(3) 教職員が組織として活動できる協働体制をつくり、チームとして児童の健全育成に努める。
(4) 家庭・地域との連携を図り，地域と一体となって児童の育成に取り組む学校を目指す。

【目指す児童像】
かしこい子ども
心豊かな子ども
たくましい子ども

【目指す教師像】
○ よさを認め、子どもに寄り添える教師
○ 互いを補い合える教師
○ 児童が「分かる、できる、楽しい」と実感できる授業をデザインできる教師
○ 学校内外の資産を活用し教育活動に取り組める教師
○ ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ・人権意識の高い教師

【校内研修の充実】
○ 授業改善・授業力向上
・研究授業の実施（話合い活動の改善）
○ 定期的なコンプライアンス研修
・教職員全員の輪番による企画･運営

【業務改善】
○ 子供と向き合う時間の確保
○ チーム支援の推進
○ 持続可能で効果的な教育活動の実践
○ 超過勤務時間の削減